

五期俳句会第百七十九回七月五日

歳本さんはお休みだけど、習字を習っている後輩の奥さんが
ゆっくりしていて、一寸遅く始まる。

虹立つや幾つになってもロマン有り

浅香さとみ

金糸梅雄蕊おしべの金や月に映え

松浦武子

老の咳アメでなだめる梅雨晴れ間

今井由紀子

信号待ち細き樹かげに炎暑さけ

塩田豆子

夫留守の夜やクーラー強でテレビ見る

浅香さとみ

焼きなすを冷やして生姜香り立つ

今井由紀子

藻の花や信濃の川に揺らぎをり

松浦武子

残像が眼まなこに痛き夏あかね

塩田豆子

森の灯や蛍見るよな夜の宮

久貝貞子

髪切つて茅の輪をくぐるためらわず

浅香さとみ

清流を囲ひし淵やまめに山女魚二尾

松浦武子

緑陰に聞くせせらぎや夢心地

今井由紀子

青葉木菟みどりの中に茶の背見せあおばすく

松浦武子

梅雨晴れや部屋あけ放ち風誘ふ

塩田豆子

過ぎし日の紫陽花思ふ三室戸寺

塩田豆子

最近テレビでプレバトと言う番組で芸能人が俳句を創って、格付けをしている。見ていて結構面白い。

皆さんも、会に来られなくても、投句だけでもなさいませんか？

歓迎します。先生が居られない為、互選です。一か月に五句で選外は発表しませんので、気になさらずにご参加下さい。